

令和7年度 第3回金沢市DX会議 発言要旨

【日時】令和7年10月29日（水）15:30～17:00

【場所】金沢市役所第一本庁舎 405会議室

○報告事項について

- DXアドバイザーの選任は全国的にも注目されている、ぜひ推進してほしい。DXアドバイザーへのインセンティブ等は何かあるか。
→各所属長による人事評価への反映のほか、県外での研修などに参加しやすくする仕組みを提供している。
- 向上心のある方々と思われるので、研修のインセンティブは多くつけてあげるとよい。
- DXプロジェクトに関して、各課題はこの後どうなっていくのか。
→改善提案に終わったものが2課題、その他の課題は何らかのツールを作成して運用を目指す。

○議題 「次期DXアクションプラン（案）」の検討

- 金沢市がこれまで施策で積み重ねてきた取組を継続する方針であるのはよい。
- これからのDXにはAI活用が欠かせない。AI活用をより伝えることを意識し、また、広く市民の意見を聞くことが大切。
- 名称案として「金沢市DXアクションプラン2.0」を提示いただいたが、現アクションプランでの3年間の実績も、パブリックコメントの際に市民に提示するとよい。2.0とするにあたり、現行プランがあったからこそ次期プランがあるのを示せば、納得感がある。
- 「2.0」はシンプルだが、市民に何が2.0なのか伝わりにくい可能性がある。分かりやすいサブタイトルをつけることも検討した方がよい。
- 取組の方向性について「デジタル」が多用されるのには違和感がある。金沢が世界に誇る伝統と創造の文化には、アナログのよい部分も含まれる。
- 魅力づくり、暮らしづくり、人づくり、仕事づくり、都市づくりといった今ある取組に対して、方向性はそのままで、デジタルをうまく取り入れて活動をサポートできるようになるとよい。
- デジタルに抵抗を感じる方々もいる。人と人とが繋がる、1人1人に寄り添う、につ

いては、デジタルに限らない。

- 根底にある考え方、「デジタルで拡がる」だと考える。直接置き換えられるものではないが、表現で印象は変わるかもしれない。

→表現の見直しを検討。

- デジタルの社会浸透と社会実装について、どのように社会実装されていくかが少し分かりづらい。具体的に文章で補足できるとよい。

- デジタルの社会実装を進めていくには、行政だけでなく、市民・大学・企業などとの多様な主体との連携、共創が大事。「情報、地域課題、意見、発想、技術等を共有できる場の構築」とは具体的にはどのようなイメージか。

→住民が課題を共有し解決を図る「マッチ箱」という仕組みや、その他にもハッカソンなどが共有の場として考えられる。今後そういう部分を強化する取組が考えられる。

- 前回の委員提言内容は、今後どのように取り込まれていくのか。

→令和8年度予算の編成前でもあり、具体的な施策は今後検討となるが、まずはプランの方向性を示していく。パブリックコメントにおいても施策提案があった場合には、関係課と共有し、実現に向けて検討していく。

- 社会浸透、社会実装を目指すうえで、KPIは今後どのように設定するのか。

- 社会実装を進めるためには、デジタルで市民生活や現場の課題を解決していく取組が必要。これまで市がトップダウンで進めてきたことを、ボトムアップでやることで、社会実装が進む。市民の現場から出てきた課題の解決数等をKPIにしてはどうか。

→アウトカム指標とアウトプット指標の両面を考慮しながら、よりよいKPIを検討していく。

- 災害や観光分野について、力を入れている施策は何か。

→災害分野では、消防の広域システムや除雪システム、観光分野では、混雑度マップや公共交通機関のクレジットカード決済対応などが挙げられる。

- クレジットカード利用データの活用などは検討しているのか。

→交通事業者・クレジットカード会社・金融機関との関係性や、個人情報もあるので、課題はあると思うが、公共交通等の利用促進を検討するうえでもデータは重要であり、今後検討していく。

- パブリックコメントについて、将来を担う若者達の意見が入るとよい。SNSなどの広報手段を検討してほしい。